

にゅうぜん

# 入善地区

(富山県入善町)

- 計 画 期 間 平成 17 年度～平成 21 年度
- 面 積 540ha
- 交付対象事業費 3,091 百万円
- 町人口 23,431 人

**ポイント** 交流人口の増加  
「情報発信・交換の場の整備」  
「アクセス性の向上(入善 I C・駐車場)」

**地区概要** うるおい館(仮称)や花月公園などの「情報発信・交換の場の整備」と入善スマート I C や花月駐車場などの「アクセス性の向上」を行い、中心市街地の活性化を図る。

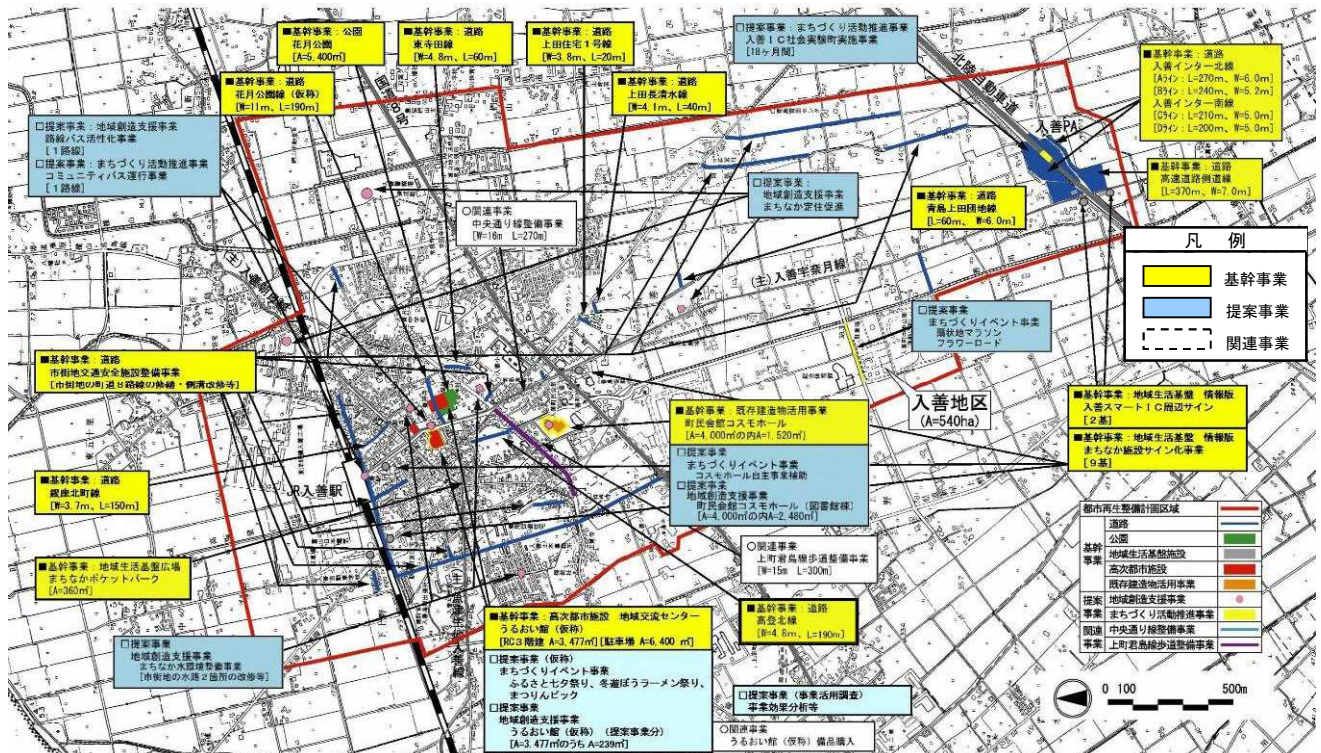
**目 標** 交流機能の拡充とにぎわい空間の創出による中心市街地の活性化

**指 標** 交流機能の核となるうるおい館や花月公園を整備し、「まちづくり活動の拠点」「イベント等の活動拠点の場」を確保する。

イベント来客数	30,000 人 (H16)	→	33,000 人 (H21)
コミバス利用者	16,100 人 (H16)	→	17,710 人 (H21)
交流施設利用者	45,000 人 (H16)	→	85,000 人 (H21)
市街地世帯数	2,934 人 (H16)	→	3,051 人 (H21)

**事業内容** 基幹事業(2,787 百万円) → 道路整備(幅員:3.8m~11.0m 延長:2,000m)、公園(1箇所 5,400㎡)、スマート I C 周辺サイン(2 基)、まちなか施設サイン化事業、ポケットパーク(1箇所 360㎡)、地域交流センター「うるおい館」(3,477㎡)、町民会館改修事業、市街地交通安全施設整備事業(8 路線)

提案事業(304 百万円) → 路線バス活性化事業(1 路線)、まちなか水環境整備事業、コミュニティバス運行事業(5 路線)、まちづくりイベント事業、入善 I C 社会実験町実施事業、まちなか定住促進事業、町民コスモホール整備、うるおい館内飲食施設、事業効果分析事業



## 地区の現況と課題

### 交流施設の老朽化と利用人数の減少

中心市街地の交流・集会施設の施設・設備が老朽化しており、利用者のニーズに対応できず、交流や集会の需要があるにも関わらず、利用人数の減少(H6:72千人→H15:47千人)が顕著である。

### 中心市街地のイベント開催場所の確保

中心市街地にイベントを開催する屋外会場や駐車場が十分に無い。現在、中心市街地の活力回復の取り組みとして、継続して開催しているイベントが複数あるが、中心市街地の空きスペースが狭いため、規模を縮小して開催しており、十分な効果が発揮できていない。

また、大規模なイベントを企画する場合、中心市街地で開催できないため、イベントの開催を諦めるか、郊外で開催するしかない。

### ICの設置

企業を誘致する際の条件として、町内にICが存在していることが最低条件になっている企業が多いため、他市町村に差をつけられている。

## 提案事業の特徴

### 入善IC社会実験町実施事業

入善駅から中心市街地を抜けて南下する主要地方道入善宇奈月線の延長に北陸自動車道入善PAがある。国土交通省が既存の高速道路の有効活用や地域経済の活性化などを推進するため、建設・管理コストを大幅に削減できるETC専用のスマートICの社会実験に取り組むことを受け、この誘致に取り組み、平成17年4月からスマートIC社会実験をスタートさせた。

社会実験開始に合わせて、安全対策の交通誘導員の配置やガソリンのサービス券を配布するなど、町独自の事業を実施し、利用促進を積極的に働きかけた。

### まちづくりイベント事業

住民主体及び中心市街地における交流人口の増加が見込めるイベントについて、補助を行い、まちづくり活動への住民参加の促進及び交流人口の更なる増加を目指した。

## 計画策定プロセス

### うるおい館(仮称)建設検討委員会

中心市街地の核となる交流施設について、地区住民代表や商工会工場協会などの諸団体と、施設のあり方について検討をした。

また、町内有志によるホテル建設の計画があり、当施設と近接するため、ホテルと当施設の役割分担などについても検討した。



▲老朽化した交流・集会施設



▲入善IC社会実験町実施事業



▲まちづくりイベント事業  
フラワーロード